

令和4年度第2回佐久市社会教育委員会議 会議録

○委嘱書交付

1 開会

2 あいさつ

吉岡教育長

中澤委員長

3 自己紹介

4 会議事項

(1) 「居場所」に関する研究調査の中間報告について

委員長

前回5月の会議から本日までの各グループの活動実績について、提出いただいた実績報告シートをもとに振り返りを行ってください。

～グループワーク(10分間)～

委員長

では、活動実績について、各グループの代表者は発表をお願いします。

コミュニティスクール(以下CSと表記)グループ代表委員

6月に各小中学校のコーディネーターと担当教員を対象にオンライン会議を実施しました。小学校の場合は約3分の1の学校において地域の方がコーディネーターを務めており、6月27日の会議では、主にCSの実践状況に関する事例発表が行われました。情報交換という意味では良い会議であったと思いますが、私達が考える、地域コーディネーターがいなくて困っているという部分には踏み込めませんでした。その反省点も生かし、6月30日の中学校の会議では、課題に感じる部分を中心に話をしていただい

た。中学校の場合、市内で地域の方がコーディネーターを務める学校は1校しかなく、ほぼ教頭先生がコーディネーターを務めていることが分かりました。

また、教頭先生方のCSについての感覚や考え方のハードルが高く、小学校とは支援の仕方が異なるということを強く認識しました。会議を開催したことにより、コーディネーターを探す方法やCSの運営に関して、様々なヒント等の情報交換ができたと感じました。

委員長

子育て支援グループの代表者は発表をお願いします。

子育て支援グループ代表委員

6月23日にうすだ健康館で開催された「親子で木もれびサロン」にてアンケートを実施し、参加者や主催者など12名の方からご回答をいただきました。

居住地や子育てサロンに参加する頻度や曜日、子育てに関して相談できる人の有無などを調査しました。主催者からのヒアリングでは、「このような場に出て来ることができる人は比較的心配ないが、家に閉じこもってしまっている人へ、交流の機会を確保するにはどうすればいいのか」という部分で悩んでいることが分かりました。

また、この会場にいた保健師経験のある方からは、今後広くアンケート調査を実施する場合にアンケートを設置する場所や依頼する機会等についてアドバイスをいただきました。

委員長

多世代交流グループの代表者は発表をお願いします。

多世代交流グループ代表委員

多世代交流グループは、①高齢者の一人暮らし世帯の方、②不登校や家以外に居場所のない子ども、③孤育ての親子、この3者をサポートが必要なターゲットとし、調査を始めました。

①高齢者の一人暮らしの世帯で家から出てこない方は、男性が多いというイメージがあるため、男性主体の料理教室や竹とんぼ等の工作講座など、男性が主役になるような場をセッティングしてはどうかと考えます。ただセッティングをしても、その情報が必

要な方へ届かないという問題点があるため、まずはそういった公民館活動などの事例集を地域内で回覧することにより、「自分にもできるかな」という気持ちを促すことが必要であると考えます。

②不登校や家以外に居場所のない子どもについて、いじめなどの明確な理由がなくとも、不登校は突然やってきます。その前に学校や親以外の地域の大人と関われるような場が必要であると考え、地域のスポーツ活動を支援しているNPO法人へヒアリングを行いました。中学校の部活動が地域に移行するという課題とも関連づけ、受け入れ体制などについても聞き取りましたが、指導者の人材、保護者の理解、均等な機会の確保、財源など、様々な課題を抱えていることが分かりました。

③孤育ての親子について、民間の子育て支援団体と行政の連携が必須であり、地域と繋がりが無い親子に官民双方からの多角的な支援が必要であると感じます。

委員長

次のグループワークに移ります。グループごと今後の活動計画について検討してください。

～グループワーク(30分)～

委員長

今後の活動計画について、各グループの代表者は発表をお願いします。

CSグループ代表委員

第2回目のコーディネーターと学校関係者の会議を行いたいと思います。オンラインで円滑な会議を行うために、小学校は学校数が多いので、学校の先生がコーディネーターを務めている学校と、地域の方がコーディネーターを務めている学校の二つに分け、お話をうかがいたいと思います。学校の先生がコーディネーターを務めている学校の会議では、地域コーディネーターの必要性を具体的にヒアリングする予定です。地域の方がコーディネーターを務めている学校の会議では、コーディネーター同士の横の繋がりをより活発にすることを目指します。

中学校の会議では、先生方に地域コーディネーターさんに求める具体的な支援の在り方が明確になるような会議を行いたいと考えています。

会議にてヒアリングを行った後、多世代交流グループの皆さんに、地域の人材発掘などにご協力いただきたいと思います。

また、CSそのものの存在のPR 方法も考えていきたいと思います。

委員長

子育て支援グループの代表者は発表をお願いします。

子育て支援グループ代表委員

今年度は対象を、乳幼児期と未就学児の親子に絞り、アンケートを実施する予定です。木もれびサロンにて実施したアンケートに、参加費1回いくらまでなら参加しやすいかなどの予算的な質問や今相談したいことを自由記述できる項目等を追加し、紙ベースでなく今度はスマートフォンやインターネットで回答できるように二次元バーコードを印刷したチラシを作り、児童館、つどいの広場、図書館や子ども未来館などでアンケート調査を実施したいと思います。

委員長

多世代交流グループの代表者は発表をお願いします。

多世代交流グループ代表委員

CSグループが学校へヒアリングを行う際に、先生に支持されてやらされたという意識ではなく、学生が楽しんで自ら取り組めるような活動ができるよう、学校だけでなく当事者になる学生へのアンケート等も実施すべきだと考えます。学校からの要望を受け、地域の人材や活動基盤の発掘など、CSグループと連携して活動していきたいと思えます。

(2) 社会教育の視点から取り組むICTリテラシーについて

事務局

誰一人取り残すことなく、すべての人々がICTの恩恵を受けることができるSociety 5.0の実現のため、高齢の方にも「ICTについて学びたい、学ぶ必要がある」という意識を

もっていただくためには、どんな施策が必要かをグループに分かれ考えていただきたいと思います。

～グループワーク(30分)～

委員長

どうしたら高齢者にもICTについて学びたい、学ぶ必要があるという意識を持っていたけるかについて、Aグループの代表者は発表をお願いします。

Aグループ代表委員

現実的には「学ぶ」と表現してしまうと難しいことを学ぶというように感じ、ハードルをあげてしまうと思います。「こうなったら生活がもっと豊かになるよ・便利になるよ」という具体的なイメージをもてるようになることが第1歩かと思います。また、もう1つの考えは、小学校では1人1台タブレットが与えられています。目の前にモノがあると、使います。使ってみると便利だということが分かります。そして便利だと使い方をさらに工夫し、もっと効率的にならないかと考えます。つまり目の前に「モノがある」ということが非常に重要であると実感しています。

委員長

B グループの代表者は発表をお願いします。

Bグループ代表委員

高齢者がICTについて学びたいと思う一番の活力は「孫と交流したいから」だと思います。また、一人暮らしの方で買い物に出られない方が、ネットショッピングや病院の予約等をインターネットでできれば便利だとは思いますが、そもそもお年寄りになると新しいことを覚えるのも大変ですし、日々暮らしていただくだけで心身共に大変だと感じている方も少なくないと感じます。また、あまりにもカタカナ語が多くなりすぎて、それにアレルギーを感じている方もいるのではないかと思います。Society 5.0の社会に向かっていますが、アナログとデジタルが両方共存しても良いのではないかと考えます。

委員長

Cグループの代表者は発表をお願いします。

Cグループ代表委員

高齢者本人でなくとも、周りの方で1人ICTリテラシーが高い人がいて、生活をサポートしてくれれば良いのではないかと、という意見がありました。例えば、臼田地区では町内有線が廃止されることを受け、ある地区ではオクレンジャーを活用しようという動きがあります。オクレンジャーを高齢者本人が使用できずとも、親族の方や近所の方が代わりに使用し、情報を共有してくれるという事例もあるので、高齢者へ事例を紹介しながら、学習意欲を徐々に高めいくこともできるのではないかと思います。

委員長

今回出された意見をまとめ、今後の会議にて議論を継続していきたいと考えます。

(3) その他

委員長

各委員さんから連絡事項等がありますか。

副委員長

先日、一般社団法人佐久市文化事業団評議員会議があり、館長から、佐久市コスモホールで開催されるリトミック講座は若いお母さん方を孤立させないこと、懐かしのディスコダンス講座は高齢者の孤立を防ぐことなどを考え計画を立てているというお話をうかがいました。また、コスモホールに様々な方が集まり、佐久市コスモホールが皆さんの「居場所」となるよう、ロビーのオアシス化を推進したいという館長さんの思いもこの場で共有いたします。

委員長

他にありますか。

委員

配布した「月刊高校教育」という情報誌の記事に、野沢南高校におけるICTの活用について掲載されていましたので共有いたします。この記事にて紹介されている「高校生が地域に出て課題解決をする機会をつくりたい」という学校の要望は、居場所づくりにも関連すると感じています。

委員長

事務局から連絡事項等がありますか。

社会教育指導員

社会教育委員日より「そよかぜ」第8号の1校をお配りいたしました。ご確認いただき、ご意見等あればご連絡ください。7月中には発行したいと考えています。

委員長

ご意見を寄せていただき、最終的には私が確認し、発行したいと思います。

5 閉 会